

## 2008年度 大学に二つの新学部を開設予定 — 生命医科学部とスポーツ健康科学部 —

### 新島の念願、結実

創立者新島は「人間を救うには霊肉両面よりすることが必要である」と考えており、新島にとつて、国民の健康・幸福に大きく貢献する医療に関わる教育は終生の念願であった。そして130年を経て同志社大学は、2003年度の京都府立医科大学との学術交流に関する包括協定の締結を皮切りに、数々の医療・健康に関わる研究センターや寄付教育研究プロジェクトを立ち上げ、2004年度、工学部に人間環境科学、運動機能・生理学などの教育課程を持つ環境システム学科を設置するなど、生命科学・医学・健康分野への関わりを深めてきた。これらの学術研究の成果・実績をもとに、2008年4月、積年の課題であった医療・健康に関わる教育・研究を専門とする「生命医科学部」と「スポーツ健康科学部」を京田辺キャンパスに新たに開設することになった。

### 生命医科学部

生命医科学部は、工学部の広範な工学研究の実績を基盤に医

学、基礎生物学、倫理学など多様な学問との融合的教育研究を行う。医療、福祉、健康など「生命」のフィールドで、創意をもって問題解決へと導く専門的かつ幅広い知識を備えたバイオメディカルエンジニア、生命科学者の育成をめざす。

学部の構成は医工学科、医情報学科、生命科学システム学科の3学科体制。入学定員は、医工学科と医情報学科が90名、生命科学システム学科が60名である。

医工学科は、機械工学と医学の融合領域の教育研究を行う。再生組織材料、生体・環境適合材料、医用ロボット、医療・福祉機器などの研究・開発を推進する。予想される就職先としては、企業・研究機関の研究・開発職、自動車メーカー、機械・電気機器メーカー、医療機器メーカー、福祉介護機器メーカー、製薬企業などである。

医情報学科は、情報・電子工学と医学の融合領域の教育研究を行う。脳内情報処理の解明、電子技術を駆使した生体情報計測、医用機器開発を柱として、研究・開発を推進する。予想される就職先としては、企業・研究機関の研究・開発職、電気・電子機器メーカー、情報通信関連機器メーカー、医療機器メー

カー、製薬企業などである。

医生命システム学科は、「生命システムとしてのヒト」について教育研究を行う。解剖学、生理学、分子生物学、免疫学、病理学など幅広い領域を研究し、本来ヒトが持つ適応機能を最大限に引き出す方法や技術の研究開発を推進する。予想される就職先としては、企業・研究機関の研究職、大学教授、独立行政法人の研究者、医療機器メーカー、製薬関連企業、食品関連企業、化粧品関連企業、マスコミ関係、サイエンスインタープリターなどである。

なお、大学院生命医科学研究科も2008年度同時に開設する予定である。

### スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学部は、スポーツと健康の新時代を担うバイオニアの育成を目的として創設される。

今日、現代人の「心」と「からだ」の問題が大きくクローズアップされてきている。モータリゼーション、運動不足、仮想現実などのライフスタイルの変化が「からだ」への影響として現れ、さらに少子・高齢化社会への突入は、直接、医療や介護の世界にも、新たな課題を突きつけている。

一方、わが国では、欧米諸国のようにスポーツが生活の中に溶け込み、生活の重要な一部となっていない現状がある。参加することも、プロスポーツを楽しむことも、いまだ発展途上の過程にある。高度なスポーツ文化の形成は生活の豊かさとも深く関係するであろう。

このような時代に、現代人の健康の問題を深く認識した上で、スポーツの喜び、楽しみを社会に伝えていく、あるいはそれら

を取り巻く環境をより具体的に整備していくなど、スポーツと健康のマルチ・クリエイターが求められている。

学生は、「健康科学コース」「トレーニング科学コース」「スポーツ・マネジメントコース」の各コースに含まれる科目を学生自身の履修プランに基づいて、自由に選択できる。入学定員は150名である。

「健康科学コース」では、身体の構造と機能に関する医・科学的理解をベースにして、健康の維持、増進のための理論と知識および制度を学修する。

「トレーニング科学コース」では、的確なスポーツ・運動の実践方法や競技力向上に関係する最先端のスポーツ科学を学修する。

「スポーツ・マネジメントコース」では、多様な社会スポーツ環境の充実・振興のための諸政策・方策、社会スポーツの管理運営、経営、スポーツ・ビジネス論などを多角的に学修する。予想される就職先としては、ヘルスケア企業、ライフサイエンス企業、医療機関、プロスポーツマネジメント、スポーツコンサルタント・アナリスト、スポーツメディア、保健体育教員、プロスポーツトレーナーなどである。

### 京田辺キャンパスの充実

最先端の人的・知的資源を有する「身体・生命、先端技術、情報を中心とする高度の複合研究拠点」である京田辺キャンパスに、新たに医療・健康に関わる教育・研究を専門とする両学部が開設されることは、キャンパスのさらなる充実にとつても極めて大きな意義を持つと言える。

(大学生命医科学部・スポーツ健康科学部設置準備室)

## 産学連携で未来の新産業を創る

### —同志社発 インキュベーション施設

#### 産学連携とは？

産学連携とは簡単に申し上げれば、大学の持っている知的財産を社会に還元することであり、企業は大学や研究機関と共同研究等を行うことで、その研究成果を実用化・製品化へ結びつけることを目的としています。「産」とは、産業界のことであり企業を指し、「学」は、教育・研究機関を指します。

「産」のメリットとしては、外部資源としての「学（大学の研究成果）」を活用することにより、資金・人材・設備などの研究開発資源や、先の見えない将来の技術開発への投資を低減することが出来ます。また、「学」は、現在の社会が求めるニーズを的確に捉えることができ、企業研究者と一緒に研究することによる学生の教育的な効果、人材育成につながるというところがあります。

これに、「官」（行政）を加えて「産学官連携」ともいわれることもあります。「官」は、企業と大学との連携をコーディネートする機能や、「産学」の共同による研究に対して必要な資金等を支援し、効率よく研究開発を促進することでイノベーション

をを引き起こし、新産業を創出することを目的としています。  
産学連携を  
分かりやすい形に

近年、様々なところで産学連携という言葉が聞かれるようになりました。経済系雑誌や新聞にも、大学と企業との研究に関する包括提携の記事や、共同研究による新商品開発のニュースが掲載されるようになってきました。しかしながら、産学連携は大企業や特殊な一部の企業のことだと思われている方が多いのも現状です。そのような方にもわかりやすく産学連携を見ていただけるように、大学のキャンパス内に施設を設けました。

知的財産や、研究シーズを一般企業や、個人の方々に利用していただき産学連携を促進するための中核施設がD-eggです。D-eggの中を覗いてもらえれば、ベンチャー企業の経営者や技術者が本学の教員の指導を受けながら新技術開発に寝食を忘れて取り組んでいる姿をみてもらえると思います。

#### 「D-egg」の魅力

同志社大学連携型起業家育成施設（通称D-egg）は、同志社大学京田辺校地の一番北に位置しています（2006年10月竣工）。中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律「中小企業新事業活動促進法」に基づき、独立行政法人中小企業基盤整備機構が、京都市および京田辺市から要請を受けて、整備・運営を行うインキュベーション施設です。インキュベーションとは、「卵の孵化」を意味しており、この場合の卵というのは、大学の持っている知的財産や研究シーズ、アイデアのことを指します。



大学京田辺キャンパスに竣工したインキュベーション施設「D-egg」

指します。それを孵化させて社会に送り出すというニュアンスです。D-eggのキャッチフレーズは、「アイデアをカタチに！」です。

現在、起業を目指す人やベンチャー企業、中小企業等を対象に入居者を募り京都市と京田辺市、中小企業基盤整備機構と共にソフト支援を行っています。研究、技術、商品化、販路開拓、資金獲得に至る全てをサポートします。

#### 「D-egg」の魅力

新規商品・新材料の開発や技術向上を目指す方にとって、大学から技術的な支援を受け、スムーズに事業化を押し進めることができます。たとえば、大学との共同研究や受託研究を進める場合にオンキャンパスならではのハンズオンサポートを受けることができます。関西文化学術研究都市に位置し、日本の最先端技術が集中する知的エリアとして、国会図書館や企業の各種研究所が立地し発展している地域と言うのも魅力の一つです。D-eggにはインキュベーションマネージャーが常駐しており、彼らを通して幅広いネットワークを活用することや、事業プランの作成・資金調達・販路開拓など、起業から第二創業まで各ステージに最適な支援を受けることが可能です。資金面での支援施策としては、池田銀行、京都銀行によりD-egg入居企業も対象の投資制度を設けており、またNPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク所属のベンチャー支援の実績のある弁護士、弁理士、税理士などによるアドバイザリーボードを設け、企業の方からのさまざまな相談に応じていますので、悩みや課題を気軽に相談いただけます。これから起業される方、起業間もない方にとって力強い味方です。

#### 「D-egg」の今

D-eggでは、12月より契約を済ませた企業が入居し始めています。現在、入居率は約80%となり、日増しに賑わいを見せております。D-eggから関西、日本、そして世界を相手にし、社会を引っ張っていくような「MADE IN DOSHISHA」の企業を数多く育てていきたいと思えます。（大学リエゾンオフィス）